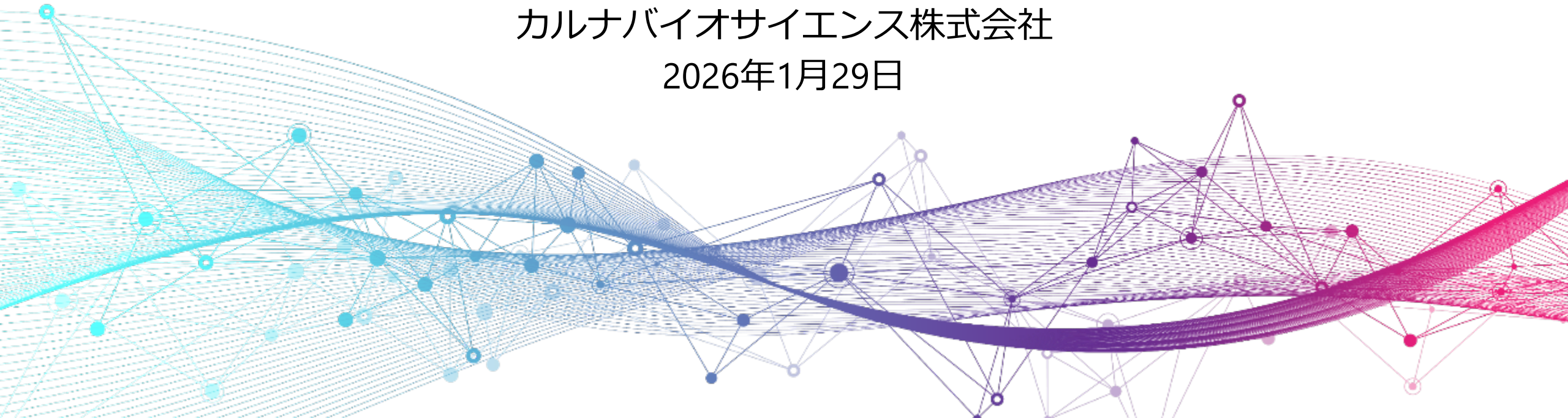


資金調達に関する 補足説明資料

第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の買入消却並びに第三者割当による無担保社債（私募債）、
新株予約権（行使価額修正条項付）及び新株式の発行に関するお知らせ

カルナバイオサイエンス株式会社

2026年1月29日



目次

1

事業概要

2

資金調達に関する補足説明



事業概要



カルナバイオサイエンスについて



当社はキナーゼ※創薬に関する技術を基に2事業を展開しています



創薬事業

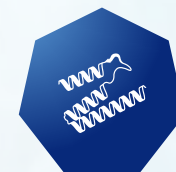
当社自身が研究開発を行い、
新薬の創出を目指す



創薬支援事業

キナーゼ阻害薬研究を行う製薬企業等
に向けた製品・サービスを提供

※: キナーゼは細胞内の信号伝達（細胞の増殖・分裂・死亡の指令など）において重要な役割を担う存在で、キナーゼの異常はさまざまな疾患の原因と考えられています。



キナーゼ阻害薬等の 低分子医薬品にフォーカス

独自の化合物ライブラリや様々な創薬技術を保有しています



製薬会社からのスピンアウトで創業

大手製薬会社からのスピンアウトに始まる当社は創薬研究に関する技術や知見を幅広く保有し本格的な創薬研究が可能な研究開発チームを保有しています



国内外の大手製薬会社と様々な実績

ギリアド・サイエンシズ社に当社が創製した創薬プログラムを導出しています
また国内大手製薬会社である住友ファーマ社との共同研究も行っています



がん、免疫・炎症疾患を対象とする 複数の臨床開発段階パイプラインを保有

臨床開発段階にある自社開発パイプラインとして3つの化合物の開発を進めています



2003年に日本オルガノンからのスピンアウトにより設立後、
キナーゼ創薬の領域において事業を展開してまいりました



2003
キナーゼ創薬基盤技術に強みを持つ
創業メンバーが日本オルガノンから
スピンアウトして当社設立



キナーゼ創薬研究に必要なキナーゼ
タンパク質、スクリーニング・プロ
ファイリングサービスを製薬会社に
提供



2010
創薬研究部を創設し、がん、免疫・
炎症疾患を対象としたキナーゼ創薬
研究を本格的に開始



2019
米国カリフォルニア州サウスサンフ
ランシスコ市に臨床開発拠点を開設



画期的な薬を持続的に生み出す

リーディング
「創薬」企業へ



2003

導出実績

- 2015** ヤンセン・バイオテック (現Johnson & Johnson Innovative Medicine) へ導出
- 2016** シエラ社 (現GSK) へ導出
- 2018** 住友ファーマと共同創薬
- 2019** ギリアド・サイエンシズ社へ導出
- 2020** バイオノバ社へ導出
- 2022** FRTX社へ導出

パイプライン

- 2020** BTK阻害剤sofnobrutinib (AS-0871) の臨床試験開始
- 2021** BTK阻害剤docirbrutinib(AS-1763) の臨床試験開始
- CDC7阻害剤monzosertib(AS-0141) の臨床試験開始

2026年計画

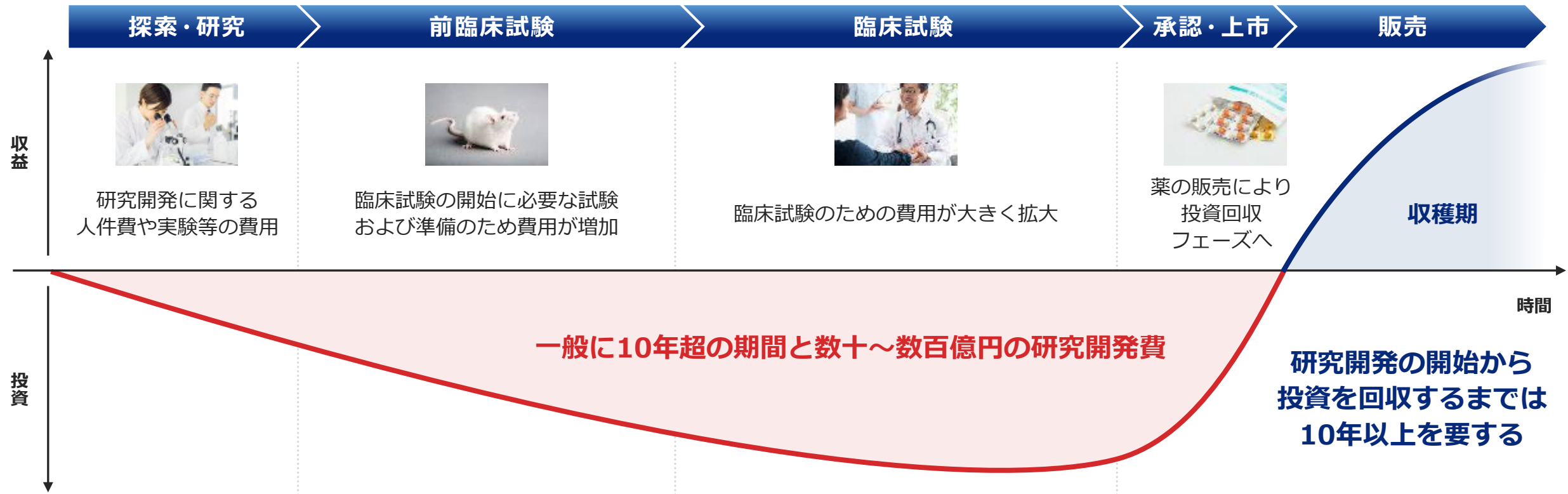
- BTK阻害剤sofnobrutinib(AS-0871) のパートナーリング活動
- BTK阻害剤docirbrutinib(AS-1763)、CDC7阻害剤monzosertib(AS-0141)の臨床試験推進
- 臨床試験を継続しながらパートナリング活動推進
- 臨床開発体制のさらなる強化
- 次世代のパイプラインの構築

中長期計画

- 開発パイプラインの臨床試験推進
- パートナリング活動推進
- 導出先からのマイルストーン収入、販売ロイヤリティの獲得による経営の安定化
- 次世代のパイプラインの構築

新薬開発のプロセスと収益化までの構造

新薬候補の探索から市場で使われるようになるまでは一般に10～15年がかかり、多額の研究開発費がかかります



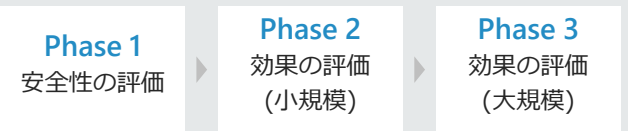
様々なアイデアに基づいて新薬の候補となり得る化合物の探索と候補の評価を行います



医薬品候補化合物について、薬効薬理、薬物動態、安全性や毒性などの評価を行うとともに、製造方法や製剤の安定性などの検討も行います



臨床試験の一般的な流れ



実際に、健康成人や患者に投与を行い、安全性や効果を確認し、新薬としての承認を受けます。



新薬として発売され、治療のために患者に処方されます



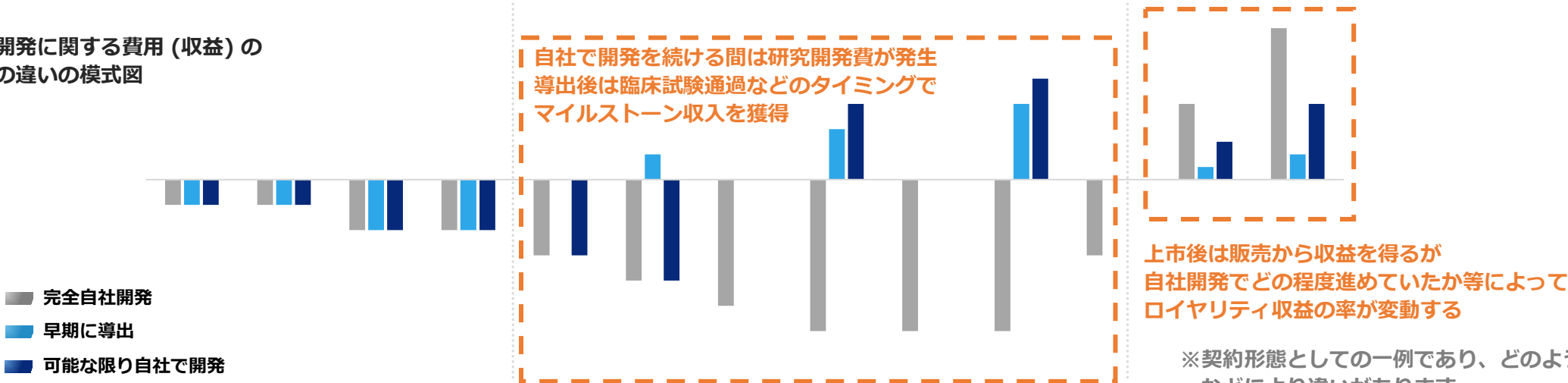
創薬ベンチャーの収益モデル



研究開発費の負担が大きいいため、自社で最後まで開発を行うリスクを取ることが難しい場合、研究開発の途中段階で製薬企業等へ導出※¹し、マイルストーン収入※²や上市後のロイヤリティ収入を得る形式を取ることがあります。



研究開発に関する費用 (収益) の発生の違いの模式図



※¹:企業が保有する医薬品開発の権利や販売権を譲渡すること。ライセンスアウトとも。 ※² 導出したパイプラインについて、臨床試験の通過時など、新薬開発の段階に応じて導出先から得られる収益

※契約形態としての一例であり、どのような新薬かなどにより違いがあります



創薬ベンチャーはパイプラインを創出するとともに、それぞれのパイプラインの中長期的な価値を高めていくことで企業価値の最大化に努めております。

パイプラインの価値の構成要素

市場規模

- ✓ どのような疾患を対象とするか
- ✓ 対象疾患の拡大は可能かどうか
- ✓ どのような使われ方になるか

想定シェア

- ✓ 既存薬と比べてどのような優位性や差別化がされているか

契約形態 (ロイヤリティ率)

- ✓ どの段階まで
自社で開発を進めるか

上市の確度

- ✓ 臨床試験の結果や
進捗状況はどうか



パイプラインの 継続的な拡大



企業価値の向上



当社の事業概要及び業績動向



当社は創薬事業と創薬支援事業の2事業を軸として展開しております。
近年ではdocirbrutinib等の自社パイプラインの臨床試験を進めており、試験のための費用が拡大しております。

創薬事業

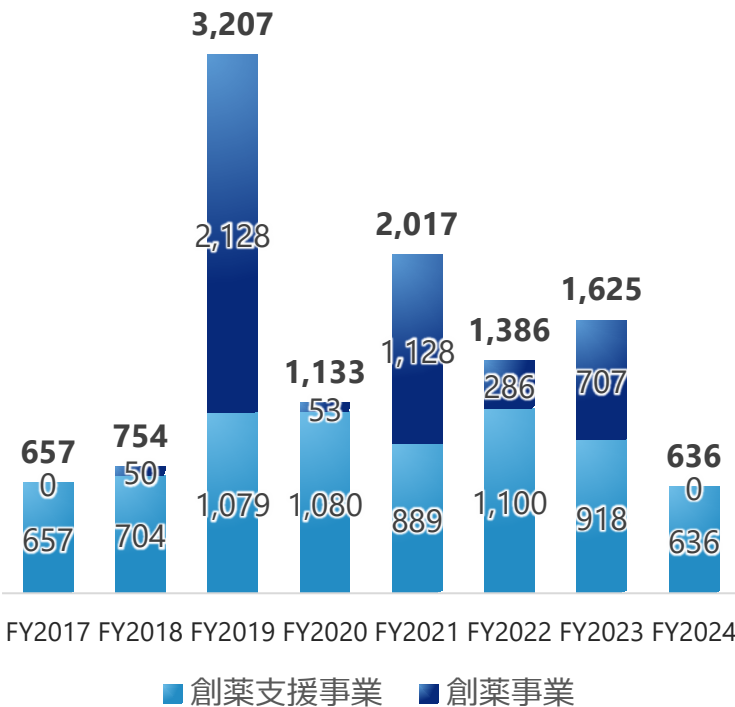
- ✓ 革新的なキナーゼ阻害薬等の低分子医薬品の研究開発に取り組んでいます。
- ✓ がん、免疫・炎症疾患を重点領域として注力しています。
- ✓ がん領域は最大Phase 2 試験まで、その他はPhase 1 試験もしくは前臨床試験まで実施し、早期に導出することを基本方針としています。

創薬支援事業

- ✓ 当社のキナーゼ創薬基盤技術を基に、リード化合物の創出や最適化の際に用いられるキナーゼタンパク質やアッセイキットの販売、プロファイリングやスクリーニングなどのサービスを提供しています。

売上高推移

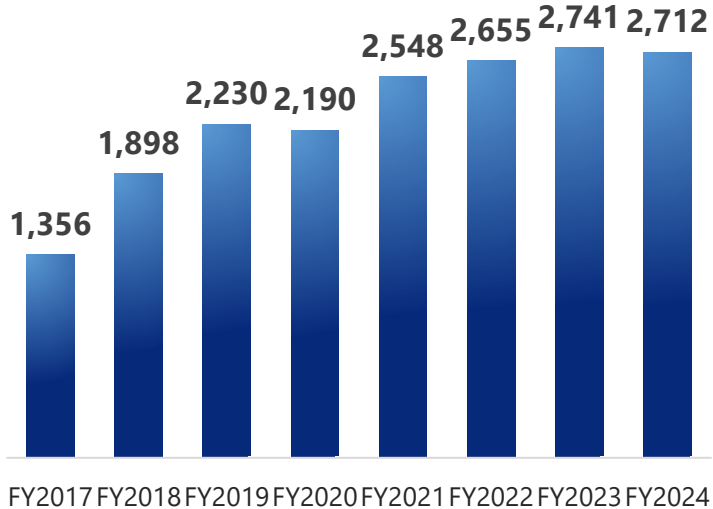
(百万円)



顧客の研究開発規模の縮小などにより、FY2024では前年比で創薬支援事業が減収となりました。

営業費用推移

(百万円)



docirbrutinib等の自社パイプラインの臨床試験開始に伴い、研究開発費等を中心に営業費用は拡大傾向にあります。



資金調達に関する 補足説明

本資金調達の目的 – 当社パイプラインの状況について –



当社は現在、ブロックバスターのポテンシャルを有するdocirbrutinibの臨床試験（米国）に取り組んでおります。また、monzosertibについては、がん治療分野で米国No.1※と評価されるテキサス大学MDアンダーソンがんセンターとMOUを締結し、医師主導治験を開始する予定です。これらの臨床試験を着実に進めることが当社企業価値の最大化に繋がると考えており、その推進に必要な資金を確保するため、本資金調達を実施します。



docirbrutinib (AS-1763)

フェーズ1b試験 実施中
(米国, 2023年8月～)

対象疾患と目指す製品像

B細胞性悪性腫瘍（CLL/SLL等の血液がんの一種）の治療を目的とした低分子経口薬（非共有結合型BTK阻害剤）

想定される市場規模や競合薬

既存のBTK阻害薬の売上高の合計は現時点でも120億ドルを超え、今後の成長も期待されている

POINT

- ✓ テキサス大学MDアンダーソンがんセンター 白血病科教授 Nitin Jain医師が多施設共同試験を主導
- ✓ 2024年10月に用量拡大パートの投与を開始



UP
DATE

- ✓ 2025年12月アメリカ血液学会 (ASH2025) にて、最新の臨床データ及び非臨床研究の結果について発表



monzosertib (AS-0141)

フェーズ1試験 実施中
(日本, 2021年6月～)

対象疾患と目指す製品像

悪性腫瘍（固形がんおよび血液がん）の治療を目的とした低分子経口薬（CDC7阻害剤）

想定される市場規模や競合薬

急性骨髄性白血病（AML）治療薬の市場規模は38億ドルに達しており、今後の成長も期待されている

POINT

- ✓ 国立がん研究センター中央病院及び東病院、がん研有明病院にてフェーズ1試験を実施中



UP
DATE

- ✓ フェーズ1試験（国内、固形がん・血液がん）最後の患者の治験が終了し、データ解析中
- ✓ フェーズ1b試験（医師主導治験、血液がん）本フェーズ1b試験の実施に向けて、がん治療分野で米国No.1※と評価されるテキサス大学MDアンダーソンがんセンターとMOUを締結



本資金調達及び買入消却の概要について



引き続きdocirbrutinib (AS-1763) 及びmonzosertib (AS-0141) の臨床開発を中心とする当社の創薬事業を着実に推進するためには財務基盤の強化が必要であることから、本資金調達の実施を決定しました。
無担保普通社債の発行に加え、当社代表取締役に対する新株式の割当および新株予約権の発行を実施いたします。

第2回無担普通保社債 (以下本社債)

発行価額の総額	1,711百万円 (額面100円につき92.5円)
払込期日	2026年2月17日
償還期日	2028年2月17日
利率	0%
割当先	Cantor Fitzgerald Europe

社債の額面総額

総額 **1,850** 百万円

- ✓ 本新株予約権の行使進捗に応じて順次償還し、負債リスクを低減

当社代表取締役に対する新株式割当

払込金額の総額	20百万円 (割当価格 433円)
割当先	当社代表取締役 吉野 公一郎

発行株式数

46,200 株

- ✓ 当社代表取締役である吉野公一郎による時価での新株式引受の意向を受け、割当を決議
- ✓ 当社の中長期の事業成長に対して代表取締役自ら出資により強いコミットメントを表明

docirbrutinib (AS-1763) 開発促進新株予約権 (以下本新株予約権)

新株予約権の総数	76,983個
潜在株式数	7,698,300株
当初行使価額※1	389.7円
割当先	Cantor Fitzgerald Europe

調達資金の額※2

総額 **3,015** 百万円

(発行諸費用控除後の
差引手取概算額 2,995百万円)

- ※1 行使価額は行使請求日の属する週の前週最終取引日の90%に修正
- ※2 本新株予約権が当初行使価額に基づき全て行使された場合の調達金額 (新株予約権発行価額総額15百万円を含む)
- ✓ 行使代金により本社債を償還後、今後の当社の株価上昇局面において追加の事業資金の調達を実現

第1回新株予約権付社債の買入消却

発行日	2025年7月28日
買入消却実施日	2026年2月17日
買入消却資金	本社債による調達資金
利率	1%/年
減少する潜在株式数	791,389株

買入消却の総額

250 百万円

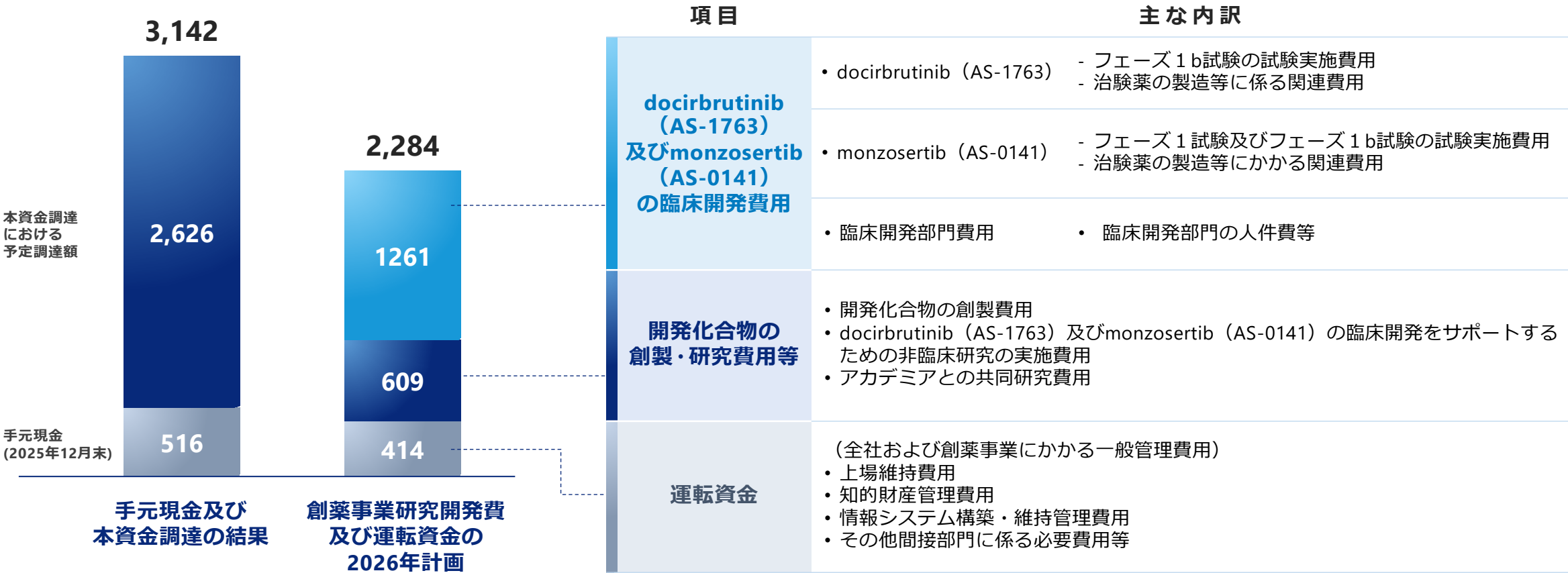
- ✓ 本社債による調達資金により買入消却
- ✓ 金利コスト及び潜在株式数を低減



本資金調達による効果

本新株予約権が想定どおり行使された場合、本社債の償還、第1回新株予約権付社債の買入消却及び諸費用を差し引いたネット調達額は2,626百万円を見込んでおります。当該資金により、2026年における創薬事業研究開発費及び運転資金を充足出来る想定です。これにより、当社はdocirbrutinib及びmonzosertibの2剤の臨床試験を中心とする企業価値向上に向けた各施策に一層集中してまいります。

本資金調達を考慮した手元資金と2026年における費用計画の状況





本資金調達の内訳及び資金使途の詳細は以下の通りです。



本資金調達による調達額および社債の買入消却・償還費用

第2回無担保普通社債		1,711百万円
docirbrutinib (AS-1763) 開発促進新株予約権	※本新株予約権が当初行使価額に基づき全て行使された場合の調達金額（新株予約権発行価額総額15百万円を含む）から発行諸費用を控除した差引手取概算額	※2,995百万円
第三者割当増資		20百万円
本資金調達による調達額 計		4,726百万円
第1回新株予約権付社債の買入消却		250百万円
第2回無担保普通社債の繰上償還		1,850百万円
社債の買入消却・償還費用 計		2,100百万円
本資金調達による調達額 – 社債の買入消却・償還費用 計		2,626百万円

資金使途

docirbrutinib (AS-1763) 及びmonzosertib (AS-0141) の臨床開発費用	1,335百万円
開発化合物の創製・研究費用等 docirbrutinib (AS-1763) 及びmonzosertib (AS-0141) の非臨床研究費用を含む	762百万円
運転資金	529百万円

合計 2,626百万円



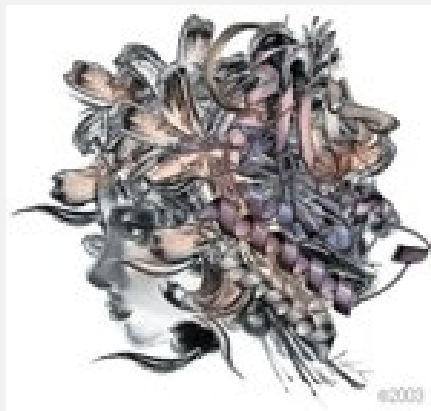
本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません

将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものです



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス

《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀の初めに、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

<https://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com